

A-102 オクラの粘質物の分布について

京都女大家政 ○川上いつゑ 江崎君子

目的 オクラの粘質物は、ナガイモ科のイチョウイモ、ヤマノイモなどと比較すると、多糖類が主成分であることは同じであるが、糖の種類は異なる。筆者の一人は、ヤマノイモの粘質物の分布について当学会で既に発表した。オクラとヤマノイモでは植物も異なり、可食部分も相違するが、これの分布の研究は、食品学の基礎的な分野の一つであろう。

材料と方法 材料は京都府立大学農学部農場から一定の品種(Green Star)の提供を受けて用いた。材料の固定には Bouin 氏液、緩衝フォルマリン液を用いた。糖質検索のためには過ヨード酸-Schiff 氏液(PAS)を用いたが、一般組織の検討のためには、ライト緑とサフラニンの二重染色をした。

結果 ヤマノイモの粘質物研究は、塊根を用いて行ったが、オクラでは可食部位が異なるので、当然この場合は莢果について調べた。従って前者とは異なつた部域で粘質物が検出された。特に種子に多く、中心柱の組織にも多く見られた。その他の部域についても特筆すべき事がある。また細胞レベルの報告もする。なお粘質物はカルシウム代謝にも大きな役割をもっていることが、暗示されている。